

簡易な「蔓降ろし器具」の考案とこの器具を使った太二ガウリの栽培					
[要約] 半硬質樹脂製のパイプに切れ込みを入れた、簡易な「蔓降ろし器具」を考案した。この器具を利用して太二ガウリを栽培すると、果実への採光が良好となって着色不良果が少なくなり、収穫期間を延長できる。					
担当部署	八女分場・中山間地作物研究室			連絡先	0943-42-0292
対象作物	野菜	専門項目	栽培	成果分類	新技術

[背景・ねらい]

近年、需要が急増している太二ガウリの栽培では、キュウリやインゲン等の果菜類で用いている鉄製パイプ枠を利用している例が多い。その場合、収穫が始まった後短かい期間で蔓葉が過繁茂となり、着色不良果が多発して長期に収穫を継続することは困難である。

そこで、太二ガウリの良品生産と長期栽培が可能となる簡易な「蔓降ろし器具」を考案し、その実用性を検討する。

[成果の内容・特徴]

1. 半硬質樹脂製のパイプに切れ込みを入れた、長さ約50cm程度の簡易な「蔓降ろし器具」を考案した(図1)。
2. この蔓降ろし器具は、作物を誘引する鉄製アーチパイプ枠にかみ合わせて用い、作物の生育に応じ、順次、鉄製アーチパイプ枠の上部から取りつけ、誘引ひもは「蔓降ろし器具」の上から張る。
作物の生育が進み、蔓降ろしが必要な時には最下部の「蔓降ろし器具」を取り外した後、上部の「蔓降ろし器具」ユニットを順次づり降ろして蔓降ろしを行う。
3. 鉄製パイプ枠の最下部では、誘引ひもを除去した後に「蔓降ろし器具」を切れ込み部から取り外すことができ、無限に蔓降ろしが可能である。
4. この蔓降ろし器具を太二ガウリの栽培に利用すると、果実への採光が良好となって着色不良果の発生が少なく、収穫期間が延長できる(図2、3)。

[成果の活用面・留意点]

1. この蔓降ろし器具は、トマトなど他の長期栽培が可能な果菜類でも、利用可能である。

[具体的データ]

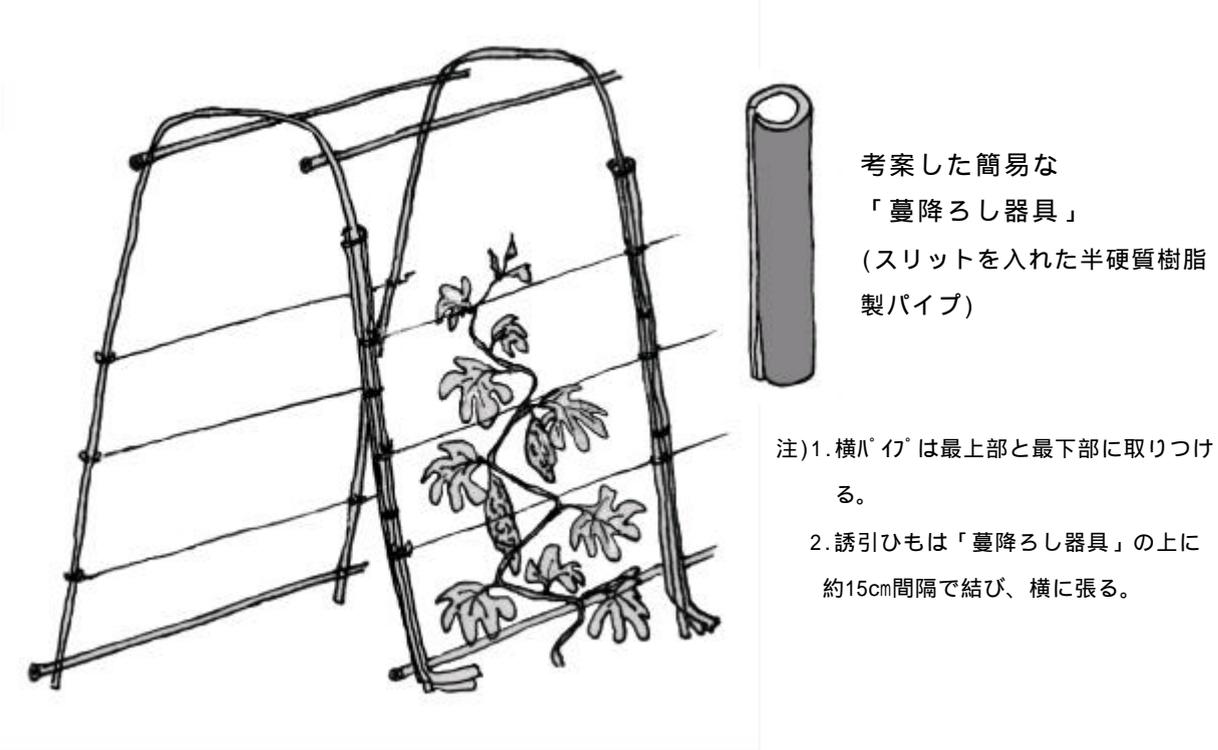


図1 簡易な「蔓降ろし器具」の概要

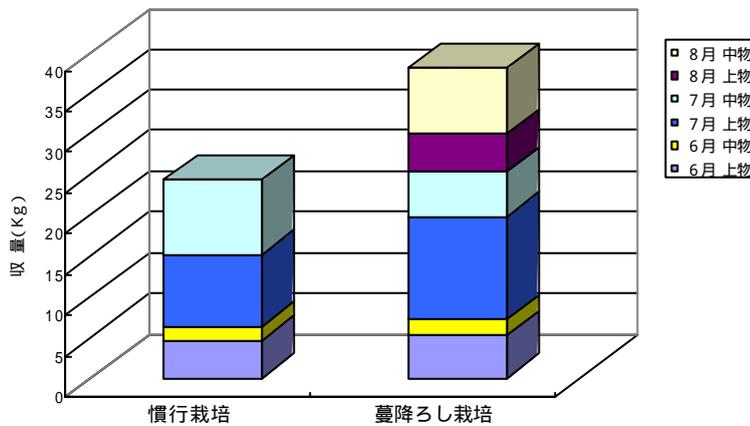


図2 栽培法の違いと太ニガウリの上中物収量
注)1. 3月16日播種ハウス栽培、8月末までの4株当たり収量
2. 「慣行栽培法」は、過繁茂により7月末で収穫終了。
3. 「蔓降ろし栽培法」は、9月以降も収穫継続可。

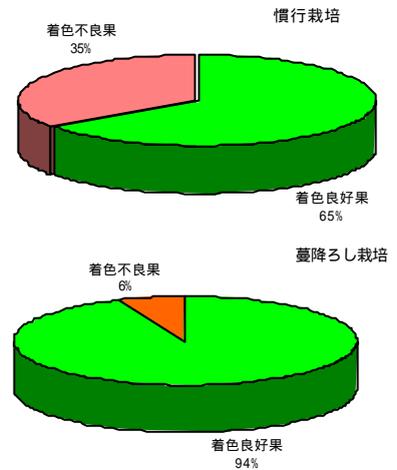


図3 栽培法の違いによる太ニガウリ着色不良果の発生割合
注) 7月末までの全収穫果に対する割合

[その他]

研究課題名：太ニガウリの安定多収栽培法確立

予算区分：県特

研究期間：平成12年度(平成11～13年)

研究担当者：林 三徳、月時和隆

発表論文等：本器具は、特許登録出願中(平成14年8月30日、特願2002-255665)。